

第61回岡山県総合バスケットボール選手権大会 兼第42回中国総合バスケットボール選手権大会岡山県予選会															
日時	2015年10月4日		女子 決勝												
会場名	笠岡市民体育センター		(B)コート												
●	就実高校 (高校①)	71	{ <table border="0"> <tr><td>21</td><td>—</td><td>25</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>10</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>22</td></tr> <tr><td>18</td><td>—</td><td>16</td></tr> </table> } 73 ELEVEN (クラブ①) ○	21	—	25	17	—	10	15	—	22	18	—	16
21	—	25													
17	—	10													
15	—	22													
18	—	16													
審判名	主 審	神田 亮一	副 審 岩田 友幸, 阿賀 文郁												

選手名	背番号	得点	3P ^o イント	2P ^o イント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3P ^o イント	2P ^o イント	フリースロー	ファウル
久山 羽菜	4	-					松山 綾子	4	-				
藤本 鈴(C)	5	11	1	4		3	菅野 千尋(C)	5	25	2	7	5	
藤原 麻衣	6	0					丹下 真帆	6	13	1	4	2	
折居 七海	7	8		3	2	1	大塚 千愛	7	14	4	1		1
青木 翔菜琳	8	0					佐藤 唯	8	6		3		4
平尾 美玖	9	-					藤野 奈実	9	-				
米田 遥菜	10	-					占部 美幸	10	-				
岡田 七海	11	-					菊本 美祐貴	11	-				
塩見 あずさ	12	24	2	8	2	2	澤田 晴菜	12	-				
池下 侑	13	-					犬飼 ひろ美	13	15		7	1	3
吉長 夏生	14	-					川端 みのり	14	0				
青木 南々華	15	-					藤原 こころ	16	-				
那須 愛加	16	16	3	3	1	5	原 絵美	17	-				
田村 幸子	17	4		1	2	5	菅 晴香	18	0				1
森 夕佳	18	8		4									
合 計		71	6	23	7	16	合 計		73	7	22	8	9

戦 評

1Q 両者ともマンツーマンでスタート。就実#12と#17のフリースローを2本ずつ決めたのに対しELEVENは3Pを立て続けに決める。その後ELEVENは#7や#5の3P、ドライブインなどで引き離そうとするが就実#16も遠くから3Pを決め、#5も速攻から3Pを決めるなど互角の戦い。ELEVENはペイントエリアのDFを頑張り#7の3Pや#6のミドルなどを決め就実21-25ELEVENとする。

2Q ELEVEN#5がDFの裏を突きフリースローを2本沈め、#8もゴール下のターンシュートを力強く決めるが、就実も#17リバウンドシュート、#5も速攻からミドルを決めるなど一進一退の攻防となる。残り7分30秒で就実25-29ELEVENとなり就実タイムアウト。ELEVENはこの機にDFを2-1-2のゾーンに切り替える。しかし就実#12が外から3Pを含む3連続得点で逆転に成功。ELEVENはすかさずタイムアウトをとりDFをマンツーマンに戻す。その後就実#7が速攻から強引にシュートに持ち込み#5もミドルを決めるが、ELEVENも#13や#5がカットインやミドルを織り交ぜ、就実38-35ELEVENで2Q終了。

3Q 開始早々、ELEVEN#5の3Pで同点とし、さらに#6のカットイン、#5がフリースロー2本決め、#7が速攻から3Pを決めるなどしてELEVEN45-38就実と逆転に成功。就実も#16のドライブや#7がゴール下を頑張るがELEVENも#7からノールックパスを決めるなどし、ELEVEN53-46就実となった所でこれまで活躍していたELEVEN#7が負傷退場。しかし#8がターンシュートやOFチャージングをもらい、#5も24秒ブザービーターなどで踏ん張り、就実も#16の3Pや#12のターンシュートで応戦しELEVEN57-53就実で3Q終了。

4Q 就実#13、#6のジャンプシュートで同点とするが、ELEVENもOFチャージングをもらった#13がゴール下を決め、#6もミドルを決めるが就実も#12や#18のハイローの合わせをするなど一進一退の攻防が続く。ELEVEN61-65就実となったところでELEVEN今度は#13が負傷退場となる。選手層が薄く、疲れの見えるELEVENであったが残り4分35秒で就実タイムアウトの後、#5が1on1からのジャンプシュート、復帰した#13がドライブからバスカンを決めるなどしてELEVEN68-68就実の同点となる。その後ELEVEN#13がターンシュートを決めるが、就実も#16がフリースローを1本、その後#17も2本沈め残り20秒で逆転に成功し、ELEVEN70-71就実とする。ELEVENはタイムアウト後フロントコートのサイドからのスローインでフォーメーションプレイを使い#5にパスが入りそのままシュートをねじ込み再逆転する。その後再び#5が残り4秒でフリースローをもらい1本沈め2点差となる。就実は最後にハーライン付近から大逆転シュートを試みるもリングにはね返され、ELEVEN72-70就実で試合終了。ELEVENは10年ぶり3度目の優勝を飾る。